

平成21年度農林水産物等輸出課題解決対策 事業実施報告書
(課題名：適正農業規範の普及と農産物輸出促進に関わる可能性と影響調査)

1 事業実施主体の概要

1) 名称、主たる業務の内容

事業実施主体：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

業務内容：

(定款より)

第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。

1. 内外の経済、金融、資本市場、産業、企業等に関する調査研究の受託
2. 社会計画、環境計画、地域振興計画及びこれらの計画に係る建築物等に関する調査研究の受託
3. 企業の合併・提携の仲介斡旋、知的財産権・産業技術に関する評価ならびに仲介・斡旋
4. 情報・通信システムに関する開発・設計の受託ならびに各種情報提供業務
5. 前各号に関するコンサルティング業務
6. 企業診断、経営戦略の策定、経営管理等経営全般にわたるコンサルティングおよび経営相談
7. 貿易・為替実務、国際投融資に関するコンサルティングならびに情報およびサービスの提供
8. 講演会、各種セミナー等による情報提供業務、各種研修の受託
9. 各種出版物の製作販売の事業
10. 前各号に関連する一切の事業

2) 所在地、担当者連絡先

所在地：東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー

担当者連絡先：コンサルティング事業本部 革新支援室 中島 猛

電話03-6711-1225

2 事業の目的

欧州地域における農産物の取扱においては、近年 GLOBALGAP (Good Agricultural Practice) が脚光を浴びている。欧州の大手小売業者を中心とした取組みから、世界的広がりを見据えた動きも見られている。欧州地域だけでなく、世界的な広がりを見せた場合、今後の日本産農産物輸出拡大にとって、大きな影響を及ぼすものと考えられる。

本事業では、その普及実態を見極めると同時に、どのような条件設定下 (例えば、大手業者と取引する際は必要となるが、中小業者との取引を念頭に置けば必要性が薄い等) で認証取得が有効なのか等を明確にし、認証取得手順とともにその成果を幅広く普及させることで、我が国農産物の輸出拡大における課題の一つについて解決を図ろうとするものです。

3 課題の概要

1) 現状

台湾、香港、韓国などアジア向けを中心に農産物輸出が拡大する中、EU向けの農産物輸出額は平成 20 (2008) 年には 20,739 百万円 (平成 16 (2004) 年対比 131.6%増) と中国向けを上回る規模にまで拡大し、重要な輸出先として位置付けられています。また、野菜・果実の輸出に限って検討した場合も同様に、EU向けの輸出金額は 1,001 百万円 (平成 16 (2004) 年対比 144.6%) と韓国向けを上回る規模となっています。そのため、EU向け輸出の拡大に取り組む産地等の課題を解消することは、今後、我が国の輸出拡大に向けた一助になると考えられます。

野菜・果実の国・地域別輸出実績 (2009 年金額上位 5 位)

順位 2009年	国・地域名	2005		2006		2007		2008		2009		
		輸出額 100万円	構成比 %	輸出額 100万円	構成比 %	輸出額 100万円	構成比 %	輸出額 100万円	構成比 %	輸出額 100万円	構成比 %	対2005年比 %
1	台湾	8,735	47.4	9,409	48.7	12,431	53.0	11,251	48.9	8,573	46.0	98.1
2	アメリカ合衆国	3,342	18.2	3,482	18.0	3,458	14.7	3,602	15.7	3,208	17.2	96.0
3	香港	1,517	8.2	1,800	9.3	2,126	9.1	2,275	9.9	2,198	11.8	144.9
4	中華人民共和国	1,272	6.9	1,130	5.9	1,128	4.8	1,238	5.4	1,001	5.4	78.7
5	シンガポール	228	1.2	256	1.3	375	1.6	509	2.2	588	3.2	258.4
参考	EU (27か国)	793	4.3	779	4.0	931	4.0	1,001	4.4	802	4.3	101.1

資料) 財務省「貿易統計」(平成 22 年 3 月)

EUにおける農産物の取扱いでは、近年 GLOBALGAP (Good Agricultural Practice) が脚光を浴びています。現在、欧州で流通する農産物の約 7 割が、GLOBALGAP の認証を

¹ 農林水産省国際部国際政策課「農林水産物輸出入概況 2008 年確定値」(平成 21 年 4 月)

取得した生産者による²とされ、カルフルやテスコ、マークス&スペンサーといった大手小売業者を中心に、その取組みを仕入の取引条件とする動きが広がっています。

それに呼応するかのように、GLOBALGAP の認証取得も増加の一途を辿り、現在では世界 80 か国以上、94,000 以上³の生産者や生産者グループが認証を取得しています。一方、日本での認証取得は僅か 16 団体 (平成 20 (2008) 年 12 月現在) に留まっている現状です。

世界における GLOBALGAP 取得状況

GLOBALGAP CERTIFICATES



※緑色の国・地域で GlobalGAP を取得

資料) GLOBALGAP Organization

2) 課題

我が国では GLOBALGAP の認証取得数が少ない状況でありながら、EU 向けの輸出額は順調に拡大しており、現時点では、GLOBALGAP は必ずしも EU 向け輸出の全ての商品に求められていないように思われます。しかし、近年では GLOBALGAP 認証の取得を要求する業者が増加しつつあり、EU 圏の小売業者にとどまらず、マクドナルド・ヨーロッパ等の外食業者や、イオン等の EU 圏外の業者にも拡大しつつあります。

このように、GLOBALGAP 認証の取得が求められる場面が増えてくることが想定されるなか、日本産農産物の多くが狙っている高所得者層、いわゆるプレミアム層を対象とする高級百貨店、高級スーパー等でも、今後、取引条件として求められることとなれば、我が国農産物の輸出拡大を考える上で、大きなハードルとなることも必至と想定されます。

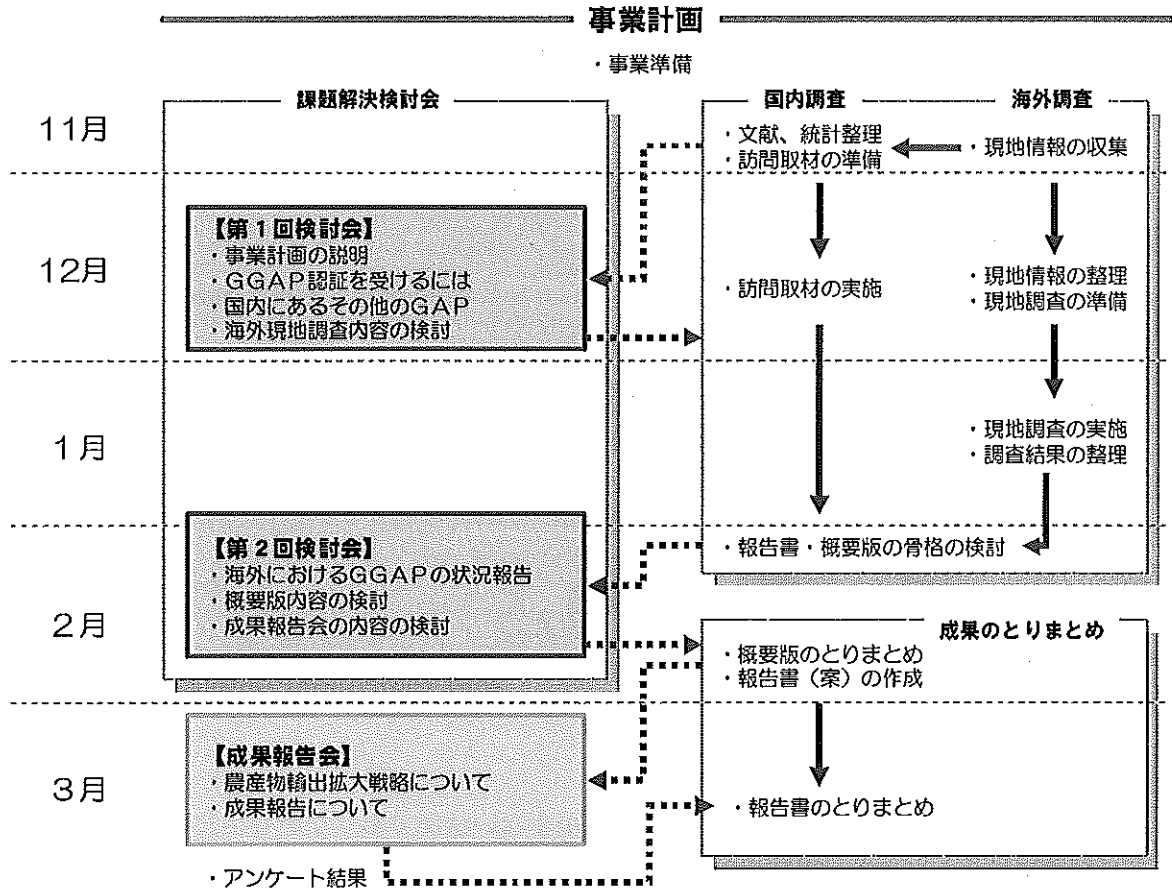
とはいえ、その可能性や影響は未だ明確になっていないとは言えず、GLOBALGAP 認証の取得を要求する業者の増加に対して、各生産者はどのような態度で向かい合っていけばよいのか、対応の方向性が明らかになっていないのが現状です。そのため、GLOBALGAP の普及にかかる実態と今後の見通しを把握し、その認証取得による有効性や影響・効果の度合などを見極めることが、今後の農産物輸出拡大に向け、肝要であると考えられます。

² 毎日新聞社「エコノミスト」(2009.3.3) 株式会社オムニバーサル北川雅臣氏のコメント

³ GLOBALGAP Organization Home Page http://www.globalgap.org/cms/front_content.php?idcat=9

4 課題の解決手法

課題を解決にあたり実施した内容は下記に示す通りです。



1) 課題解決検討会の設置、開催

有識者、関係者、官公庁担当者等により構成される「課題解決検討会」を設置し、我が国における GLOBALGAP の現状への理解、本事業における調査方法の検討、情報の整理などの各種検討を行いました。

2) GLOBALGAP における取り組み実態の調査

文献調査等を実施し、GLOBALGAP の普及状況や国内の GAP についての情報の収集、整理を行いました。また、国内での聞き取り調査を行い、我が国における GLOBALGAP の取得方法の整理や、他の主な GAP との比較検討を行いました。同時に、海外での現地調査を行い、海外の認証を要求している小売・外食業者について、普及状況および今後の展望についての情報の収集、整理を行いました。

その際には、これまで実施された事業の成果や関連する参考資料等の貸与を受け、参考とし、また踏まえたものとしています。

3) 課題解決策の検討

上記の調査結果に基づき、GLOBALGAPの認証要求実態に即した形で、輸出促進に取り組む産地の課題解決策を検討しました。

4) パンフレットの作成

以上の調査結果および検討した課題解決策に基づき、その成果を幅広く普及させるためにパンフレットを作成し、広く配布しました。

5) 成果報告会の実施

また、以上を通して検討した課題解決策に基づき、本事業における成果を幅広く普及させることを目的として成果報告会を開催しました。

5 事業成果

本事業を通じて以下のような成果を得ることが出来ました。

1) GLOBALGAP が必要とされる場面の整理

海外現地調査を踏まえて、GLOBALGAP が要求されている企業群、業種、品目などを整理すると共に、他の地域への拡大可能性を検証した結果、図のような結果となりました。

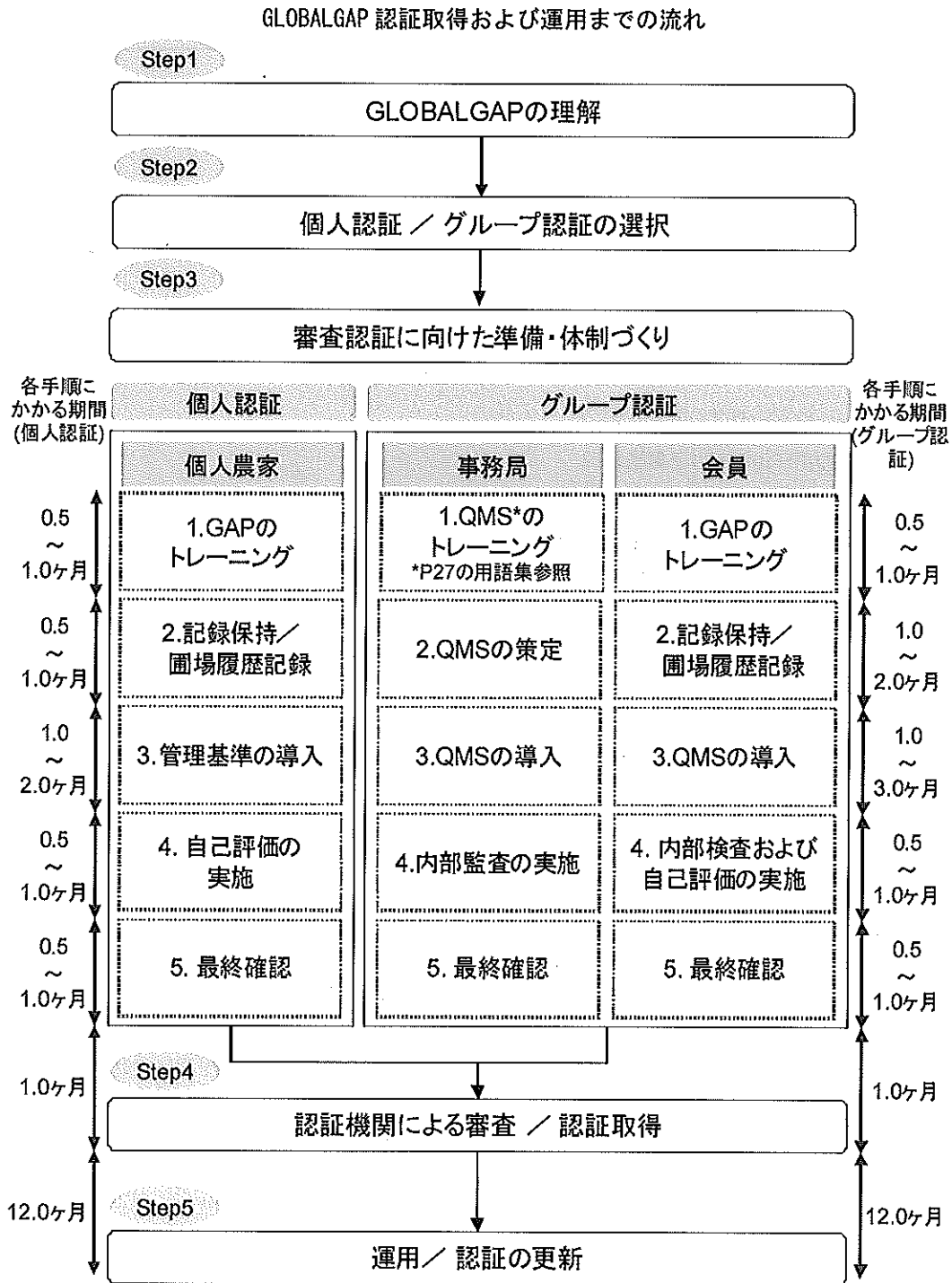
世界における GLOBALGAP 取得状況

		競合する 代替品がある場合	競合する 代替品がない場合
		一般普及品 (リンゴ、みかん等)	ニッチ商品 (大葉、みょうが等)
欧州地域	小売 外食 メンバー	要求される	要求されない 可能性が高い
	日系企業 (メンバー 以外)	要求されない	要求されない
	その他	個別の判断による	要求されない 可能性が高い
シンガポール マレーシア ドバイ	小売 外食 メンバー	認証済み農産物の 流通割合が高まれば 要求される	認証済み農産物の 流通割合が高まっても 要求されない 可能性が高い
	日系企業 (メンバー 以外)	要求されない	要求されない
	その他	要求されない	要求されない

資料) インタビューより MURC 作成

2) 認証取得/継続までの手順

GLOBALGAP が必要な場合を想定し、認証取得を考えている方々のために取得の手順を整理しました。



資料) インタビューより MURC 作成

3) 報告書の作成

現地調査および課題解決検討会での検討結果を踏まえ、本事業の報告書を100部作成し、貴省およびその指定先に配布しました。

報告書目次

《目次》

はじめに ー調査の概略ー

第1章 GLOBALGAP の概要と取得手順

I. GLOBALGAP とは

II. GLOBALGAP 認証取得/継続手順

第2章 GLOBALGAP が要求される状況の整理

I. 海外出張の概況

II. 欧州地域における要求状況

III. マレーシアにおける要求状況

IV. シンガポールにおける要求状況

V. アラブ首長国連邦における要求状況

VI. 認証取得が求められる場面の整理

第3章 報告会の開催

I. 報告会概要

II. 成果報告会における説明内容

III. 今後の普及啓発に向けた課題など

参考資料

4) パンフレットの作成

現地調査および課題解決検討会での検討結果を踏まえ、

- ・ 農産物の輸出事業（新規または拡大）を考えており、認証が必要とされる場面、必要とされない場面について確認したい方
- ・ GLOBALGAP の取得の流れや留意点などを確認したい方

に向け、パンフレット「農産物の輸出に向けた GLOBALGAP 認証取得のヒント集」を20,000部作成した。

パンフレット目次

《目次》

はじめに ーなぜ GLOBALGAP かー
委員からのメッセージ

I. GLOBALGAP が求められている場面を知る

- ・ どのような方に GLOBALGAP が必要なのか
- ・ どのような場合に GLOBALGAP が必要なのか
- ・ どのような地域で GLOBALGAP が要求されているのか
- ・ GLOBALGAP の要求が拡大しそうな業界はどこか
- ・ GLOBALGAP の要求状況まとめ

II. GLOBALGAP の取得/継続方法を学ぶ

- ・ GLOBALGAP 認証取得/継続までの流れを把握しよう
- ・ 認証取得に向けた費用のモデルケース
- ・ 用語集

問合せ一覧および情報入手先